

【研究論文】

観光の視点からみた秋田県にかほ市

—観光経験からのアプローチ—

井上 寛

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科

【要約】 秋田県南西部沿岸に位置するにかほ市は、人口 22,000 人ほどのまちである。「日本海と鳥海山に抱かれた自然と文化と科学のまち」というキャッチコピーに象徴されるように、かつては、和歌の歌枕に詠まれ、松尾芭蕉をはじめとした数多くの文人墨客が訪れる、潟湖に島々が浮かぶ、風光明媚な景勝地であった。その後、江戸時代後期に発生した大地震により隆起してしまったが、現代に至るまでその景観は地域の人にまもられ、その景観を再現しようと現在でも取り組まれている。さらに本稿では、この地を訪れる観光者にも焦点をおき、観光社会学の古典である、E. コーエンが論じた『観光経験の現象学』を援用し、観光者の行動を 5 つに類型することを試みた。そして、にかほ市を持続可能な観光地にしていくためにはどのようにしたらよいのか、観光社会学の視点から一考察を述べることを目的とする。

Keywords: にかほ市, 象潟, 持続可能な観光, 観光経験, E. コーエン

1 はじめに

此寺の方丈に座して簾を捲けば、風景の一眼の中に盡て、南に鳥海、天をさゝへ、其陰うつりて江にあり。西はむやむやの關路をかぎり、東に堤を築きて秋田にかよふ道遙かに、海北にかまへて、浪打いる所を汐こしと云。江の縦横一里ばかり、倂松嶋にかよひて又異なり。松嶋は笑ふが如く、象潟はうらむがごとし。寂しさに悲しみをくはへて、地勢魂をなやますに似たり。

象 潟 や 雨 に 西 施 が ね ぶ の 花
汐 越 や 鶴 は ぎ ぬ れ て 海 涼 し

この文章は、松尾芭蕉『おくのほそ道』^{きさかた}象潟の一部分である。この作品については、文学や歴史学のアプローチにより数多くの先行研究が発表されているが、本稿では、この文章にしたためられた、作者が当地を訪問した想いを観光の視点から注目することにしたい。

後述するが、この象潟は中世より歌枕に詠まれる景勝地として有名な場所であった。冒頭の

「此寺」とは、芭蕉が旅の目的地とした^{かんまん}蛸満寺のことであり、鳥海山、象潟の入り江に映るその山影、有耶無耶の関、日本海と汐越といった往時の絶景を描いている。そして、「松嶋は笑ふが如く、象潟はうらむがごとし」と対比し、寂しい上に悲しい感じが加わっていて、人が心に憂いを抱いているような趣があると述べている（麻生 1961: 379）。

芭蕉は1689（元禄2）年3月27日¹⁾に江戸から北上し、日光に立ち寄り、白河の関を抜けて松島、平泉を経由し、最上川を酒田まで下ったあとに北上し、象潟を訪れた。ここで折り返し、日本海側の海岸線を延々と歩き、大垣へと至っている。150日間にもわたる旅の中で、象潟が北限の地であった。そして、1804年に大地震が発生し、海面が隆起し陸地化したことにより、往時の景観が失われてしまったが、その後も芭蕉を慕い多くの文人墨客が象潟を訪れている。また、隆起後に、新田開発されようとした^{くじゅうくしま}九十九島の景観をまもるために藩と闘った蛸満寺の住職、時はながれ令和の時代、圃場整備により往時の景観を取り戻そうとする試みも進行している。

観光の文脈からは、近代以降の当地は海水浴場やキャンプ場などの夏の観光地として栄え、鳥海山の秋田県側の登山口として整備がされていく。平成に入ると国道7号線沿いに道の駅が建設され、観光集客の要となる。そのいっぽうで、日本海沿岸東北自動車道の未開通部分が開通し山形県側と直結すると、南北方向に往来する車両が国道7号線を経由しなくなる²⁾。このような状況の中で、にかほ市が持続可能な観光に取り組んでいくためにはどのようにしたらよいのかについて本稿では述べる。2ではにかほ市の地勢や産業について確認したあと、3ではにかほ市の観光にかんするさまざまなデータを確認する。3では、近世から近現代にいたる景勝地象潟や鳥海山を中心とした景観保護の歴史について観光の視点から概観する。これらを踏まえ、4では観光社会学の古典である、E. コーエンの『観光経験の現象学』を援用し、観光経験の5つのモードに類型することにより分析をおこなう。おわりに、前述した問題意識に対しての一考察を述べたい。

2 にかほ市の地勢と産業

はじめに、本稿においてフィールドとする秋田県にかほ市の地勢と産業について概観しよう。にかほ市は、県南西部の沿岸に位置し、2005（平成17）年10月1日に、秋田県由利郡仁賀保町^{このうち}、金浦町、象潟町の新設合併により誕生した自治体である（図1）。南北約23キロメートル、東西約17キロメートル、面積は約241.13平方キロメートルである。本稿のフィールドの中心となる旧象潟町はその最南端に位置し、山形県^{あぐみ ゆぎ}飽海郡遊佐町と県境を接している。気候は、降雪量も少なく、秋田県内として比較的温暖な地域として知られている。



図1 にかほ市の位置³⁾

沿岸部には国道 7 号線と JR 羽越本線が南北方向に並行して通過し、さらに内陸部の丘陵地帯には日本海沿岸東北自動車道が、現在、秋田市側から象潟インターチェンジまでの区間が供用されている（にかほ市 2022a WEB サイト）。鳥海山の山頂⁴⁾から、海岸線までの直線距離は約 16 キロメートルと近く、これは世界的にも珍しい地理的特徴であり、山すそが海岸近くまで延びているので、人口は海岸部の平野部に集中している。

2024 年 12 月 31 日現在の人口は 22,075 人であるが（にかほ市総務課 2025: 1）、1955 年の 35,944 人をピークに減少を続けている（にかほ市 2020b: 2）。電子部品製造業と稲作を中心とした農業を基幹産業とし、日本海の豊かな恵みを生かした漁業、日本海と鳥海山をエリアとする貴重な歴史・文化遺産に支えられた観光業など、様々な地域資源に恵まれた環境で成長を続けてきたが、不安定な経済情勢の影響を受け、この 20 年間で第 2 次産業から第 3 次産業への変遷が顕著に表れている。「令和 2 年国勢調査」における就業構造は、就業者総数 11,543 人のうち、第 1 次産業 8.8%、第 2 次産業 40.3%、第 3 次産業 50.9%であり（にかほ市 2021: 1-2）、第 2 次産業の構成比は、秋田県内全体の 23.9%よりも高いことが特徴である（秋田県 2022）。

3 にかほ市の観光

つぎに、現在のにかほ市の観光について概観する。(1)では、にかほ市の観光コンテンツについて、(2)では観光客がにかほ市を訪問する契機について、(3)では観光入込客数の推移について、統計データをもとに確認する。

(1)観光コンテンツ

にかほ市観光協会が発行するパンフレット「にかほ市観光情報 秋田県にかほめぐり旅」を参照し、どのような観光コンテンツを、観光客に対し訴求しようとしているのかを確認しよう。A4 サイズ 4 ページのパンフレットの表紙には「鳥海山と日本海に抱かれた自然と文化と科学のまち」というキャッチコピーが掲げられ、後述する観光コンテンツの写真と、にかほ市マスコット「にかほっぺん」が紹介されている。次の見開き 2 ページには「海あり、山あり、豊かな自然に囲まれたにかほ市で新鮮な海の幸、山の幸を楽しもう！」というメッセージがあり、イラストマップをベースに「眺」「歴」「楽」「食」のCATEGORYに分類された写真と簡単な説明により紹介されている。なお、最後のページはにかほ市アウトドア拠点施設「NIKAHO OUTDOOR BASE」の紹介、にかほ市へのアクセス方法が書かれている。CATEGORY別にどのようなコンテンツがあるのかを確認しよう。

「眺」では、鳥海山や日本海が眺望できる場所や、かつての名勝九十九島、山麓にある自然を体験できる観光コンテンツが紹介されている。「歴」には、象潟の景色の要として蚶満寺が紹介され、白瀬南極探検隊記念館は、近代の郷土の偉人という理由から、この部分で紹介されている。

「楽」では、道の駅象潟「ねむの丘」やにかほ市観光拠点センター「にかほっと」のほか、にかほ

市の観光の柱のひとつである「科学」にまつわるTDK歴史みらい館やフェライト子ども科学館といった博物館施設や、新たな観光の目玉であるアクティビティの施設としてにかほ市が近年整備した竹嶋潟スケートパークや前述のアウトドア拠点施設が紹介されている。「食」にかんしては、夏の天然岩ガキ、冬の寒鱈、大竹地区で収穫されるいちじくや飛良泉（日本酒）、あつみのかりん糖、きさかたうどんや鱈の魚醤を使った「タラーメン」が紹介されている。これらより、紹介されている観光コンテンツのベースは、鳥海山と日本海からもたらされた自然のめぐみであることが理解できる。

(2)にかほ市を訪問する契機

2024年6月に、後述する道の駅象潟「ねむの丘」と、にかほ市観光拠点センター「にかほっと」において学生が実施した聞き取り調査では、限定的なデータではあるが、回答の多くがドライブの途中での休憩を目的としこれらに立ち寄っており、季節柄「天然岩ガキ」などの海産物の食事や海を見にきたという回答もみられたが、通過地点に立ち寄るという傾向の回答が散見された⁵⁾。

いっぽう表1は、にかほ市（2023a）がインターネットモニターに実施した「にかほ市を訪問する契機」について尋ねたデータである⁶⁾。有効回答数815サンプルの回答（複数回答可）となっているが、「別の目的地に行く途中に立ち寄った」という回答の割合が40.4%と最も高く、回答者全体の4割は、にかほ市が主の目的地ではなく、途中で立ち寄ったことがこのデータから読みとれる。ついで「仕事・出張・ワーケーションで」が26.5%であるが（にかほ市2023a:24）、国連世界観光機関（UN Tourism）が定義しているように「観光」はビジネスが目的の旅行も含まれる⁷⁾。これら2項目の割合が突出して高いことに、本研究では注目したい。

表1 にかほ市に訪れたきっかけ(MA)

		(N=815)	
選択肢	割合	選択肢	割合
にかほ市に住んでいた	2.3%	テレビ番組を見て	4.7%
仕事・出張・ワーケーションで	26.5%	インターネットやSNSの情報を見て	9.3%
ツアーに組み込まれていたから	3.8%	旅行情報サイトを見て	8.0%
駅などでポスターを見て	4.8%	友人・知人の紹介や勧められて	10.2%
旅行会社のパンフレットを見て	4.4%	別の目的地に行く途中に立ち寄った	40.4%
雑誌を見て	6.6%		

出典：にかほ市2023a:24をもとに筆者作成

(3)観光地点別入込客数の推移

つぎに、秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課が毎年発行している「秋田県観光統計」のうち「観光地点等入込客数調査」のデータを参照し、にかほ市内の観光地点の観光客数の変化を確認していこう。なお本稿では、観光庁（2024）が「観光入込客統計に関する共通基準」を定めた、2011（平成23）年以降のデータを使用する（表2）⁸⁾。この期間には、2011年3月に東日本大震

災が発生, 2013 年 10 月から 3 か月間, 観光誘客キャンペーンである「秋田デスティネーションキャンペーン」が開催されている⁹⁾. また, 2017 年 4 月から 6 月までは, 秋田県による「春の大型観光キャンペーン」が開催されている. 観光地点全体をみると, 2018 年が最高で, 年間 200 万人を突破している. これは, 後述する「にかほっと」のオープンと符合している. 2020 年には COVID-19 のパンデミックが発生しており観光客数は減少しているものの, 2015 年までと同じ水準に回復している. 行催事・イベントを含めた合計値をみると同様に 2018 年が最高値を示している. 以下, 中分類ごとに数値を確認しよう.

1)自然

この中分類にカテゴライズされる観光地点のうち, 入込客数をもっとも多いのは, 鳥海山の 5 合目に位置する鳥海山・鉾立である. 2023 年は 22 万人ほど訪れているが, COVID-19 や天候による増減が見られるが大きな変化はない. なお, 同じ位置にある鉾立ビジターセンターは秋田県営の施設で, 鳥海山関連の展示がある. 奈曽の白滝は, 後述するが古くから国の名勝にも指定されている名瀑で, 旧来から観光客が訪れる地点であり近年は増加傾向にある. 同様に元滝伏流水も同様で, 2021 年以降 4 万人台で推移している. 中島台レクリエーションの森には, 異形ブナの「あがりこ」大王や国の天然記念物に指定されている獅子ヶ鼻湿原がある. 観光案内人のガイドによりトレッキングを体験できる場所であるが, 観光客が増加したいっぽうで, 環境への負荷の観点から木道が整備されている. いっぽうで象潟海岸は, 2019 年までは 1 万 6 千人前後の訪問客数で推移してきたが, 2020 年以降減少し, 2023 年には 7 千人台である.

2)歴史・文化

「歴史・文化」の 4 地点のうち, 蛸満寺にかんしては 2011 年が 5 万人弱の入込客数があり, 2012 年以降は地点として表示されなくなり, TDK歴史みらい館は 2018 年以降観光地点としてデータが公開されるようになった. 3 館とも 2020 年以降は 1 万人を割っており 2023 年にも以前の数値には回復していない.

3)温泉・健康

この中分類での観光地点は, にかほ市内では温泉保養センターはまなすが 1 か所のみであり, 後述する道の駅と同様, にかほ市が 100%出資する第 3 セクターが運営する温泉施設である. 年間 16 万人前後の入込客数で推移してきたが, 2020 年以降 11 万人台に落ち込んでいる.

4)スポーツ・レクリエーション

「スポーツ・レクリエーション」の観光地点のうち, 市の施設である仁賀保運動公園には, にかほグリーンフィールドと称するサッカーやラグビーなどに使用されるスタジアムがある.

表 2 にかほ市の観光地点別観光地点等入込客数(延べ人数)

表 2 にかほ市の観光地点別観光地点等入込客数(延べ人数)															(単位: 人・地点)	
中分類	観光地点の名称	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		
01	鳥海山・鉾立	233,000	245,200	171,075	257,455	246,153	245,450	259,592	250,091	276,819	141,523	156,007	264,066	228,577		
01	鳥海鉾立ビジターセンター	11,791	15,863		11,668	11,336	9,942		11,458	12,129	6,954	3,883	16,774	17,517		
01	奈管の白滝	23,670	24,070	23,020	24,670	24,820	24,870	24,720	25,655	27,616	18,167	18,620	38,361	34,246		
01	元滝伏流水	22,170	23,270	27,570	29,875	29,950	29,870	29,470	32,220	32,350	22,610	43,546	45,820	45,240		
01	中島台レクリエーションの森	37,475	50,377	53,581	44,015	46,188	31,720	25,926	22,279	23,275	15,130	9,575	13,729	9,116		
01	象潟海岸	16,500	17,100	16,810	16,225	16,060	16,020	16,000	16,000	15,550	10,152	10,097	13,662	7,345		
02	フェアイト子ども科学館	47,551	47,508	15,255	51,326	46,754	46,571	45,395	38,814	37,508	8,362	10,417	17,113	26,582		
02	白瀬南極探検隊記念館	16,214	18,257	15,688	14,557	14,681	12,722	12,091	11,562	11,805	7,560	7,644	9,453	9,987		
02	T D K 歴史みらい館								25,447	30,126	7,117	7,749	13,838	19,497		
02	蛙満寺	49,500														
03	温泉保養センターはまなす	161,897	156,787	164,496	162,055	163,705	157,518	151,632	146,297	161,523	112,589	118,215	112,708	112,670		
04	象潟海水浴場	37,650	41,285	23,813				8,083	8,853	8,582	411	7,646	3,393	3,888		
04	奈管川河川公園	12,442														
04	土田牧場	96,960														
04	ひばり荘	21,810	12,827	16,129	18,772	21,553	11,530	7,855								
04	仁賀保運動公園		32,600	30,630	33,215	33,415	33,300	31,982	26,773	31,100	12,883	6,420	51,720	18,450		
04	三崎公園	15,919	21,597	17,260	14,001	13,980	14,688	11,583	10,049	10,520	13,050	6,859	11,211	1,261		
06	ねむの丘	108,015	116,195	118,630	123,837	130,687										
06	観光情報センター	522,422	547,755	521,489	509,168	522,371										
06	道の駅象潟ねむの丘						522,973	1,142,212	513,792	482,880	340,599	337,964	428,867	444,196		
06	にはね館センター「にはね」								670,833	606,040	349,757	370,553	358,570	345,942		
観光地点合計		1,434,986	1,537,341	1,394,686	1,485,124	1,513,168	1,341,489	1,957,106	2,003,623	1,957,273	1,193,520	1,241,078	1,574,595	1,502,150		
行催事・イベント		148,928	126,614	99,100	111,100	100,450	111,000	80,500	85,450	122,500	4,201	0	0	18,000		
合計		1,583,914	1,663,955	1,493,786	1,596,224	1,613,618	1,452,489	2,037,606	2,089,073	2,079,773	1,197,721	1,241,078	1,574,595	1,520,150		

出典：秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課 2012-2024 各年版をもとに筆者作成

そして仁賀保高原にある土田牧場は、2011 年 9 万 7 千人弱の入込客数があり、2012 年以降はデータが掲載されていない。同じく仁賀保高原ひばり荘は展望施設であり、年間 2 万人前後で推移していたが、2017 年に 8 千人を割り、2018 年以降は同様にデータが掲載されていない。

いっぽうで、象潟海水浴場は、2011 年の 3 万 7 千人に対し 2023 年は 3,888 人と 10 分の 1 に、同様に三崎公園も 2011 年は 1 万 6 千人弱に対し 2023 年は 1,261 人と著しく減少している。

5) その他

その他に分類される観光地点について、2015 年までは、道の駅「ねむの丘」と同施設内の観光情報センターが別々にカウントされていたが、2016 年以降のデータでは、道の駅象潟「ねむの丘」として統合されている。2011 年には両者をあわせておよそ 65 万人であったが、2017 年の 114 万 2 千人をピークとして 2023 年には 44 万 4 千人であった。2018 年には隣接地に観光拠点センター「にかほっと」が建設されているので、両者の数値をあわせれば増加傾向にある。「ねむの丘」や「にかほっと」は、にかほ市における観光集客の要であり、前述した「通過型観光」が多い傾向はこの数値からも理解できよう。

4 鳥海山と日本海に抱かれた観光

ここでは、前章で紹介したキャッチコピーのうち、「鳥海山と日本海に抱かれた」の部分に注目して論じていく。当地には、古くから観光者が訪れ、住民の力によって大切に守られ育てられてきた観光コンテンツがある。そのひとつが、「象潟の景観」である。芭蕉が「松嶋は笑ふが如く、象潟はうらむがごとし」と両者を対比したように、「東の松島、西の象潟」と二大景勝地として認識されていた¹⁰⁾。(1)では、過去から現在にわたり、地域の人びと、すなわち観光ホスト側はどのように景勝地象潟をまもってきたのか、(2)は、旅の目的地としての象潟について、観光ゲスト側から、(3)では、鳥海山や象潟海岸など、近代以降の夏の観光地としての歴史について、(4)では、観光施設の建設について述べていく。

(1) 地域の人びとにまもり続けた象潟の景観

はじめに観光ホスト側の視点から、象潟町史（2001・2002）や長谷川（1996）による歴史学の先行研究をもとにみていこう。景勝地象潟を擁する塩越村は本荘藩領であり、藩主は名高き景勝地が領内にあることを誇り、島の景観保持に力を入れてきた。

藩が景観保全のうごきをみせるのは、1690（元禄 3）年にいたってからであり、同藩が「象潟取り立て」を決め、検地した箇所であってもそれらを含めて各島々を畑などにはせず、荒廃したままにしておき、景勝地である象潟の保全に尽力し、幕藩体制下における新田開発の指示に逆らう形で放棄することにした（長谷川 1996: 131-133）。さらに、1709（宝永 6）年 4 月には、『象潟島々相改預想定候覚帳』において、象潟に浮かぶ島々と景観を構成するのに不可欠と考えられ

た重要な森などを確定したうえで、蚶満寺と近隣の名主、庄屋で管理者を決めるという、より前進した保全策が出された（同上書：134-135）。

1764（明和元）年と1768年には、ほぼ同内容の象潟の景観保全の達書が本荘藩より発令され、蚶満寺に象潟の支配を命じた。また、同年には、塩越村の役人に対し、象潟の中へ潟船以外の船を入れることを厳禁する指令を出し潟中へこれらの船が入り込むことによって、景観が荒らさせるのを防ごうとした（同上書：140）。また寛政時代には象潟の所有をめぐり本荘藩と蚶満寺による争論もみられた（同上書：144）。

1804（文化元）年6月4日、出羽国由利郡と庄内地方を中心としてマグニチュード7.1の大地震が発生し、象潟の被害は甚大なものであった。地震後に本条藩から幕府に出された被害届によれば、「泥湧出埋（中略）如陸相成、入津之船、出船致兼候」という状況であった（本荘市史1986：129）。つまり、潟湖が隆起したことにより陸地化し、これまでの風光明媚な景観は失われてしまったのである。本荘藩は地震発生2年後の1806（文化3）年には開田の計画を立てそれを実行に移した（長谷川 前掲書：148）。地面になってしまった象潟を開田したが、この段階では象潟の島々は開田されていない。開田が一段落した1810（文化7）年9月、蚶満寺二四世覚林が、本荘藩の寺社奉行所に対して、開田の中止を訴える書簡を出し、景勝の面影を伝える島だけはのこしてほしいと再三訴えた。紆余曲折があり1822（文政5）年に覚林は獄死してしまったが、結果として、象潟の島々が開田されることは阻止され、九十九島としてのこされたのは、命を懸けて景観を守りぬいた覚林の功績である。1852年に象潟を訪れた吉田松陰は「古寺あり、四十九年前、地震寺を毀つ、今即ち平田漫々」（同上書：154）と当時の象潟を評している。

時はながれ、1934（昭和9）年1月、のこされた島々は「象潟」として「史跡名勝天然記念物」として指定された（文化庁 WEB サイト）。さらに、1963年7月には、「象潟」は、島々のみならず、周囲の農地も「鳥海国定公園」の一部として、第2種特別地域に指定された（環境省）。藩政時代に耕地化された場所も建築物の新改増築等が制限されることにより、市街地化されることなく景観がまもられることになったのである。その後、2020年3月には「にかほの景観を守り育む条例」が制定され、同時に策定された「にかほ市景観計画」では、にかほ市の歴史・文化の拠点として、その景観の保全と活用が図れるような景観に誘導していく九十九島ゾーン（重点計画ゾーン）として区分された（にかほ市2020a：37）。いっぽうで、1984年には、天然記念物である「象潟」にも松くい虫の被害が報告されるようになった。年々被害が深刻化する中、1999年度には「九十九島の松を守る会」と称する市民ボランティア団体が組織され、さらに旧象潟町では2000年度に市民ボランティアが島を管理する「島森制度」が発足して被害を食い止めたのである（斎藤 2023：8-9）。そして現在でも、地域の宝として象潟はまもり



写真1 駒留島と田植え前の水田

続けられているのである。写真 1 は、九十九島のひとつ駒留島を、春の田植え前に撮影したものである。水田が水鏡となることにより、往時の景観を彷彿させる。

(2) 旅の目的地としての象潟

つぎに、史料などをもとに¹¹⁾、象潟を旅の目的地として訪れた、観光ゲスト側からみていこう。象潟の景観は中世より知られていた。平安時代中期の歌人である能因は 1051 年から 3 年間象潟で過ごし、「世の中はかくても経けり象潟の海人の苫屋をわが宿にして」と詠じ、また西行は「きさかたのさくらは浪に埋もれてはなの上こぐあまのつり舟」と詠じている（象潟町教育委員会 1973: 458）。これらにより、象潟は「歌枕の地」として文人墨客のあこがれの地となっていた（金森 前掲書: 271）。

冒頭で紹介した松尾芭蕉は、象潟に 1689（元禄 2）年 6 月 16 日¹²⁾ から 18 日まで象潟に滞在している。蚶満寺に収蔵されている「芭蕉象潟自詠懷紙」には、滞在期間中に芭蕉は象潟で 3 句詠んでおり、そのうち 2 句を推敲して『おくのほそ道』に収録されている。芭蕉の旅の目的は、「歌枕」そして、能因・西行を訪ねる旅であったといわれているが、「日光」の節において、「曾良は河合氏にして、惣五郎と云へり。芭蕉の下葉に軒をならべて、予が薪水の労をたすく。このたび松しま・象潟の眺共にせん事を悦び（後略）」という記述があるように、松島と並んで象潟は、この旅の目的地のひとつであった。

『おくのほそ道』がはじめて刊行されたのは、芭蕉の死後の 1702（元禄 15）年のことであり、俳人以外にも、商用や信仰のついでに『おくのほそ道』の現場を一見するものが出てきたり、俳人の中には宗匠たるものは一度は『おくのほそ道』をたどらなければ恰好がつかないという風潮を生み出していた（同上書: 57-8）。芭蕉を敬慕し「奥の細道屏風」などを描いた俳人・画家の与謝蕪村は 1742 年に、同じく俳人の小林一茶は 1791 年に象潟を訪れている（象潟郷土資料館: 2）。その後、1804 年に象潟地震が発生し、景勝地としての景観は失われてしまっており、隆起後に訪れた俳人の正岡子規は、芭蕉 200 年忌にあたる 1893 年に 33 日間の

『おくのほそ道』をめぐる旅をし、「はてしらずの記」（1893）において、「象潟は昔の姿にあらず。」とその様子を記している（正岡 1893: 559）。その後も、平賀源内（1773）、伊能忠敬（1802）、吉田松陰（1852）、竹久夢二（1922）、斎藤茂吉（1947）といった文人墨客たちが、歌枕や芭蕉の「おくのほそ道」の足跡をたどるために象潟を訪れており、蚶満寺の境内には、芭蕉をはじめさまざまな像や句碑が建てられている（写真 2）。『おくのほそ道』刊行から 300 年を経た現代において、『新・おくのほそ道』（2001）では、『象潟はうらむがごとし』と記されて裏の日本に降るねむの雨』と俵万智が



写真2 松尾芭蕉像

詠し、「芭蕉が描写しておいたために、象潟の本来の風景が人びとの精神の中に見事に残っている」と、立松和平が現在の象潟を評している（俵・立松 2001: 114-6）。なお、2014 年 3 月には、「お

くのはそ道の風景地」として、「三崎（大師崎）」と「象潟及び汐越」の2か所が、他の地域とともに国の名勝に指定された¹³⁾。

(3)夏の観光地としての近現代

ここでは、近代以降の観光地としての歴史を、とりわけ鳥海山と象潟海岸にかんするものを中心に、象潟町史（2001）に記述されている内容をもとに確認しよう。

当地に鉄道が開通したのは1921（大正10）年11月12日のことであった。このときは山形県側の吹浦駅から象潟駅までが開通した。数度の延伸を経て1924（大正13）年には、秋田駅から新津駅までの全線が開通している（象潟町2001：150）。大正末期には、「鳥海山は日本の宝・できるだけ多くの人に親しんでもらいたい」という信念に基づき、金峰神社阿部貞臣宮司が私財を投じて次のPR活動をした。①1921年、奈曽の白瀑や上郷・浮島の絵はがきを作り、全国に配布した。②1925（大正14）年、秋田県内ではまだ珍しかった「一本杖スキー」の講習会を鳥海山麓に誘致し、新聞記事によって鳥海山の存在を全国にPRした。③大正末期に鳥海山の版画ポスターを作成し東京で印刷し、それを1927（昭和2）年に上野など首都圏の各駅をはじめ仙台、盛岡、新庄、鳴子などに200枚近く掲示した。このポスターは彩色したもので、空は薄いオレンジ、山頂付近が水色、山裾は緑、海岸が黄色、海は青。現代でも通用するカラフルな図柄に登山道や名勝地が細かく記入されている。そして1932年3月29日、「奈曽の白瀑谷」が国指定名勝となったのも影の功績であるとされている（同上書：176-7）。マスメディアの発達していない時代に、鳥海山をはじめ、奈曽の白滝をPRするためにはこのような地道な努力が必要であったのである。

象潟町史（2001）では、象潟海岸が海水浴場として利用されるようになった時期は不明としているが、1922（大正11）年8月25日の新聞記事に海水浴客2名が海水浴中に事故に遭った記事が紹介されている（同上書：466）。また、海岸のキャンプ村は昭和初期に鉄道局の後援で大湊付近の松林で催され、大盛況であった（象潟町教育委員会 前掲書：122）。

戦後間もない1948年には、象潟町観光協会が設立され、その業務内容に、象潟海水浴場海開き、キャンプ村「海の家」開設（象潟町 前掲書：463）という記述がみられた。1953年に町営水族館が開館したが、1963年に漏電で施設が使えなくなり休館になったのち、1967年に新館が移転新築されたものの、隣接店舗からの出火で類焼し、その後の再建計画は結実しなかった。当時のレジャーの多様化や、男鹿市に県営水族館が建設されたことが理由とされている（同上書：464-5）。1959年には、夏の観光シーズン中に国鉄バスが象潟駅から鳥海山三合目の霊峰まで1日2往復のバスを運行することになり、1961年には五合目の鉾立まで運行されるようになる（同上書：506-7）。時代は、マイカーブームとなり、鳥海山の象潟口から五合目の鉾立を經由し山形県吹浦口へ通ずる県営有料道路「鳥海ブルーライン」が建設された。秋田県側は1972年8月、山形県側までは1973年11月に全線開通し、開通25年後の1997年からは通行料金が無料化した（同上書：468-9）。このように、海水浴場や鳥海山といった夏のレジャーをコンテンツとしたマストツーリズム型の観光地が昭和期に形成されていったのである。

(4) 観光施設の建設

さいごに、近年建設されたにかほ市内の観光施設について概観しよう。白瀬南極隊記念館は、にかほ市金浦町出身の白瀬^{のぶ}にまつわる施設で 1990 年に開館している。前述した「科学のまち」にかんする施設として、1998 年にフェライト子ども科学館、2005 年に TDK 歴史みらい館が開館している。ともに当地出身のフェライトの工業化に尽力した、にかほ市平沢出身の斎藤憲三に関する施設である。象潟郷土資料館は、地震による隆起前の象潟を描いた「象潟図屏風」をはじめ、『おくのほそ道』関係の資料を常設展示し、貴重な史料を収蔵している。

道の駅象潟「ねむの丘」は 1998 年 3 月に、総事業費 40 億円をかけ、秋田県内 12 番目の道の駅としてオープンした（同上書：481-482）。物産館・農業直売所、レストラン、展望温泉と最上階には展望塔があり、鳥海山と九十九島の眺望を楽しむことができる（写真 3・写真 4）。にかほ市観光拠点センター「にかほっと」は、道の駅の敷地に隣接して 2016 年 4 月にオープンした。にかほ市観光協会、秋田県内と庄内地域の観光案内、特産品の販売などを行う。飲食店や休憩スペース、無料の足湯がある。さらに、2024 年 6 月、道の駅敷地内に、にかほ市アウトドア拠点施設「NIKAHO OUTDOOR BASE」がオープンし、アウトドア用品店が誘致されアウトドア情報の発信や用具のレンタルを行うビジターセンターが設置された¹⁴⁾。



写真 3 道の駅象潟ねむの丘



写真 4 九十九島と鳥海山

5 観光経験の類型

これまで、にかほ市の観光についてさまざまな視点から紹介してきたが、観光社会学の古典のひとつである、イスラエルの社会学者 E. コーエンが著した『観光経験の現象学』を援用、つまり観光経験の視点から類型をおこなう。コーエンは、観光経験の現象学的な類

型論を展開し、他者たちの文化・社会生活・自然環境に関心を持ったり観賞したりすることが、旅人にとって、どのような意味を持つのかを分析する」（Cohen 1979=1998: 42）ことを研究の目的としている。コーエンが同書を著してから現在まで半世紀近い時間が経過しており、レジャー

レクリエーションモード (recreation mode)
気晴らしモード (diversionary mode)
経験モード (experiential mode)
体験モード (experimental mode)
実存モード (existential mode)

筆者作成

図 2 観光経験の類型

の多様化や観光形態の変化など考慮する必要があるが、この意味を考えながら、にかほ市にやってくる観光客を類型化することにより、持続可能な観光の方向性を探る一助になる可能性がある」と筆者は考えた。

コーエンは観光経験を、「レクリエーションモード」、「気晴らしモード」、「経験モード」「体験モード」「実存モード」の5つのモードに類型している（図2）。これらのモードは図2の矢印の方向に階層づけられており、奇妙で新奇なものの中に「単なる」楽しみを見出すツーリストの経験から、他者の中心に意味を求める現代版巡礼者の経験までである（同上書：42）としている。さらに、図中の点線を境にした「レクリエーションモード」「気晴らしモード」は、近代産業社会からきたマスツーリストたちから成り立っているとし、残る3つのモードは、観光が他人事に対して有する意味の深さにおいて、異なったレベルにある（同上書：45）と述べている。

（1）レクリエーションモード・気晴らしモード

「レクリエーションモード」は、映画や舞台やテレビといった娯楽と同じようなものであり、レジャー活動や気分転換や休養に重点が置かれている。彼らが求めるのはレクリエーションでオーセンティック（＝本物性）なものは求めていない（同上書：43）。そして「気晴らしモード」の観光は、レクリエーションの意味を持っておらず、退屈で無意味な日常から逃れ、バケーションでのんびりする、「ただの気晴らし」であるとしている（同上書：44）。さらに、前者は自己の社会の中心を支持しており、後者は、中心を喪失した空間で移動をおこなっていると指摘する（同上書：45）。コーエンがいう中心を日常と解釈すれば、この2つのモードは、観光者にとって、非日常が重要か否かという部分に相違点があると考えられよう。たとえば、鳥海山や日本海を眺めながら気晴らしをする、海水浴や登山をする、おいしいものを食べるといった従来型の観光は、このモードにカテゴライズされよう。ただし、「天然岩ガキを食べることを目的に『にかほっと』を訪れる」といった行動は、オーセンティシティックを求めた行動である。

（2）経験モード・体験モード・実存モード

つぎに、「経験モード」は、ツーリストは他者のオーセンティックな暮らしを「他者のもの」とずっと思っており、他者たちのオーセンティックな生活様式を取り入れたりもしない。オーセンティックな暮らしを営む人々に交じって過ごす時も異邦人であり続ける（同上書：46）としている。

図2の点線より下側にある「経験モード」は、上側のマスツーリズムに対するサステナブルツーリズム（＝持続可能な観光）、あるいはテーマ性の強い体験型のニューツーリズムであると考えられる。近年では、獅子ヶ鼻湿原や元滝伏流水のトレッキング、そば打ち体験、芭蕉が歩いた散歩道、飛良泉の酒蔵見学¹⁵⁾など、コンテンツを着地型観光¹⁶⁾につなげる試みもさかんに行われている（にかほ市2012：3）。いっぽうで2016年9月には、「鳥海山・飛島ジオパーク¹⁷⁾」が日本

ジオパークに認定されており, にかほ市内では, ジオサイトと文化サイトが合計 15 か所設定されている(鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 WEB サイト)。

さらに「体験モード」では, 他者のオーセンティックな暮らしにかかわろうとするのだが, 完全にコミットしようとはしない。体験モードのツーリストは「自分探し」をし, 試行錯誤を繰り返しながら自分自身が共鳴できる生活の形を発見しようとしている (Cohen 前掲書: 47)。

2023 年 3 月に閣議決定した「第 4 次観光立国推進基本計画」では, インバウンド回復戦略の中で「アドベンチャーツーリズムの推進」が掲げられており, この観光形態は, 「アクティビティ体験, 自然体験, 文化体験の 3 つの要素のうち, 2 つ以上の要素で構成される旅行」と定義され, 旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を, 地域の方々とともに体験し, 旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態としている (日本アドベンチャーツーリズム協議会 WEB サイト)。まさに, コーエンが類型する「体験モード」を体現する観光形態であり, にかほ市においては, 前述したアウトドア拠点施設を拠点としたアクティビティが, 今後大いに期待される。いっぽうで, にかほ市では, 2022 年 11 月から, 産業体験や観光体験ができる「HAGAIGU にかほワーケーション」が民間への委託事業としてはじまり (にかほ市 2022 WEB サイト), また, 2023 年には, 特色のある新事業を創出しようとする企業を支援する施設として, シェアオフィスや会議室がある, 象潟新産業支援センター「しまのま」をオープンさせた (にかほ市 2023b WEB サイト)。これらは, 「体験モード」をサポートする施策であるといえよう。

最後の「実存モード」は, 自己の社会や文化の主流とは異なった中心に完全にコミットする旅人たちに特徴的なものであり, 「土地の人間になる」ように望む (同上書: 48) とある。つまり「実存モード」は, にかほ市への移住である。市政要覧「にかふおーかす」(2019)では, 「自然の豊かさ, のんびりとした暮らしを求めて変わるライフステージのなかで, 暮らすほどに好きになる魅力と住みよさを提供します (にかほ市 2019: 5)」と, にかほ市への移住を訴求している。

以下に, にかほ市に夫婦で移住し, 地域おこし協力隊として活躍している方の体験談を紹介しよう。

(前略) これから登る鳥海山に心躍らせながら車を降りた時の清々しい空気と, 登山口なのに海が広がる光景を見た時のあの感動は今でも忘れられません。いつもなら到着後は速やかに支度をして登山を開始するのですが, この日は朝の光に包まれたにかほの街と, その向こうに広がる女神が居るかと思うほどに清澄な海の色に釘付けになり, なかなか登山をスタートできませんでした。ブルーとシルバーが混ざったような何とも言えない澄んだ色の海に, 「なんて美しいんだろう」と体の中までスーッと綺麗になるような心地よさを感じました。それと同時に「ここに住めたらいいな」という思いが自分の中から湧いてきたことに驚きました。登山が趣味の私たちは, 毎週末のように夫婦で各地の山に登りながら, 将来の移住先を探して 10 年以上を過ごしてきましたが, 「ここに住みたい」と思う場

所にはまだ出会えずにいました。（石井 2023： 19）.

この事例では、まさに、登山という「経験モード」において上記の「心地よさ」を感じ、「鳥海山と日本海に抱かれた自然」とともに暮らすにかほ市への移住、つまり「実存モード」に至ったのではないか。このように、「実存モード」に至るには「経験モード」や「体験モード」の観光を通じて、オーセンティックを体感してもらう必要があるが、その契機をつくるという観点から、マスツーリズム型の「気晴らしモード」や「レクリエーションモード」の観光も重要である。別な視点からも述べると、J.アーリー他が『観光のまなざし』（2011=2014）において指摘する、観光客が「ロマン主義的まなざし」を向ける場所がにかほ市にはある¹⁸⁾。それも、「鳥海山と日本海に抱かれた」場所である。

6 おわりに

前述したように、2015年に象潟インターチェンジまで部分開通した日本海沿岸東北自動車道は、今後現在未開通の秋田・山形県境区間が段階的に開通予定である。日本海沿岸のまちが高速道路で結ばれ、日本海側拠点間の交流、連携強化などの効果が期待されているが（国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所パンフレット）、いっぽうで高速道路のルートから若干離れた位置にある「道の駅」では、前述したように、道の駅の魅力化やアクティビティの充実が図られている。いっぽうで、秋田県の事業として2029年までに実施する「景観保全型」の圃場整備事業工事も九十九島周辺ではじまっている。前述した景観保護団体の活動や行政・土地所有者の維持管理によって、現在の象潟の景観が保たれているものの、地区内の30%以上が耕作放棄地となっており、九十九島の景観保全に課題を生じているため、圃場を大区画化して耕作放棄地を解消し、電柱の地中化など景観の保全を図るために実施される（象潟前川地区景観保全型ほ場整備推進委員会2021：3）。大きな水面に浮かぶ九十九島と逆さ鳥海山、緑の絨毯の九十九島、稲穂による黄金色の海に浮かぶ九十九島、雪景色の水墨画のような九十九島など、四季折々の九十九島を観光の柱としてPRすることが可能になる（同上書：9）。このような取り組みができるのも、長い間地域の人びとによって、美しい景観がまもりつづけてきたからに他ならない。コーエンのいう「レクリエーションモード」や「気晴らしモード」の観光者を増加させつつ、それを契機としてより高次のモードの観光体験に移行させていくことが、にかほ市の観光振興にとっては肝要であり、それが持続可能な観光の実現につながっていくのである。

この持続可能な観光を実現させるためには、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」ことを実現していくこと、つまり「ユニバーサルツーリズム」を推進していく必要があるだろう。これまでに述べてきたように、にかほ市の観光にとってのキラーコンテンツは、まさに「鳥海山と日本海に抱かれた」自然や文化であり、長野県が取り組む「信州ユニバーサルツーリズム」の取り組みが参考になるので紹介したい。WEBサイトでは、「豊かな自然環境は、高齢者や障がいのある

方々にとってバリアとなることがありますが、それを完全に排除することは困難です。そのため、長野県では地域における専門的な人材や機器の導入支援を通じて、信州の美しい大自然を多くの方に楽しんでいただけるように、『信州ユニバーサルツーリズム』を推進しています」と紹介されている（長野県 WEB サイト）。たとえば、アウトドア車椅子など、専用機器のハード面での整備のほか、「GoNAGANO 観光ナビゲートセンター」による情報提供や、地域トラベルサポーターによる同行介助や専門ガイドといったソフト面での対応により、さまざまな魅力的なアクティビティが体験できるようになっている（同上サイト）。にかほ市が誇る「鳥海山と日本海に抱かれた」環境を最大限に活かして、どんな人でも楽しむことができるアクティビティの環境を整えていくことはもちろんのこと、年齢や性別、国籍、障害の有無のにかかわらず、すべての人が安心して楽しめる観光地を目指すことが、持続可能な観光を推進していくうえで、非常に重要な視点ではないだろうか。

さいごに、にかほ市「広報にかほ」（2025）に掲載された、今野観光課長の「かわらないモノ」と題する、持続可能な観光への想いが込められたコラムを紹介したい。

（前略）人の趣味、嗜好はその時々で変化するものであり、それは当然なことです。そんな中でも鳥海山麓に広がる自然や文化、日本海の恵み、アウトドア活動は変わらず受け継がれています。変わる時代を受け入れながら、変わらない気持ちや地域の魅力を最大限に引き出し、たくさんの人に伝えたい。そして、次の世代へ引き継いでいきたい。なんてことを思いながら、観光振興を図っています。皆さんも地域の魅力を探して、体験して、誰かに伝えてみませんか？（にかほ市総務課 2025: 6）

謝辞

本稿を執筆するにあたり、にかほ市商工観光部観光課の今野伸二観光課長と佐藤大樹副主幹、そして同市教育委員会文化財保護課の齋藤一樹文化財保護班専門員には、数次にわたり本稿執筆にあたり情報提供や有益なコメントをいただいた。また、ノースアジア大学の講義やフィールドワークにおいて学生とともにお世話になった。そして、「観光まちづくり実習」において、ともにフィールドワークをおこなった受講生 14 名のみなさんから、多くの学びを得ることができた。この場を借りて御礼申しあげる。

注

- 1) 陽暦では5月16日にあたる。
- 2) 新聞の取材に対し、市川雄次にかほ市長は「トラックをはじめ何割かの減少は覚悟している。わざわざ来てもらえる『目的地』として、観光やソフト面で磨きを掛けていくしかない」と述べている（河北新報オンライン）。
- 3) 地図素材サイト Map-It (<https://map-it.azurewebsites.net/>) を使用して作成した。
- 4) 鳥海山の山頂は山形県に属している。
- 5) ノースアジア大学「観光まちづくり実習」のフィールドワークとして、2024年6月16日に学生14名と筆者が、道の駅象潟「ねむの丘」および、にかほ市観光拠点センター「にかほっと」において観光客を対象に聞き取り調査を実施した。
- 6) 「にかほ市シティープロモーション戦略」を策定するために、2023年1月27日から2月3日まで、にかほ市を訪れたことのある10代から50代までの男女に対し「市外アンケート調査」としてにかほ市が実施したインターネット調査である。調査を実施した時点で、にかほ市を除く秋田県内、山形県遊佐町・酒田市、新潟市、仙台市、首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に居住している、楽天リサーチのモニター登録者を対象とし、有効回答数は815件であった（にかほ市 2023a: 46）。ただし、実施方法がインターネット調査であること、10代未満と60代以上年齢層のサンプルがデータに含まれていないことを考慮する必要がある。
- 7) 世界観光機関（UNTourism）は、観光客（tourist）の定義を「個人が普段生活している環境、訪問地における雇用を除く、一年未満のビジネス、レジャー及びその他のあらゆる目的で訪問地を一泊以上滞在した者を観光客又は一泊以上の訪問客」として定義されている（UNTourism 2008 WEB サイト）。
- 8) この調査における観光地点の定義は、「観光・ビジネスの目的を問わず、観光客を集客する力のある施設又はツーリズム等の観光活動の拠点となる地点を意味し、日常的な利用、通過型の利用がほとんどを占めると考えられる地点は対象としない（秋田県 2024: 3）」としている。この表では、観光庁（2024）が示した「観光地点等分類表」の中分類にしたがい、「01 自然」、「02 歴史・文化」、「03 温泉・健康」、「04 スポーツ・レクリエーション」、「06 その他」別にならべ替えた。なお、中分類「05. 都市型観光」は、にかほ市には該当する観光地点が存在しない。
- 9) 秋田デスティネーションキャンペーンが開催されたのは、1997年につづき2回目であった。キャンペーンが実施された2013年の前年には「プレ」、翌年には「アフター」のデスティネーションキャンペーンが開催されている。
- 10) 相撲や歌舞伎役者の番付表に見立てて、幕末に発行された「大日本名所舊跡見立相撲」と題する名所ランキングでは、東之方に関脇・奥州松嶋、小結・羽羽象潟とあり、ともに上位に位置づけられた。
- 11) 2024年7月2日と2025年1月17日ににかほ市象潟郷土資料館を訪問し、企画展『『おくのほそ道』最北の地・象潟』を観覧し、同市教育委員会文化財保護課の齋藤一樹文化財保護班専門員から松尾芭蕉や象潟にかんする教示を得た。
- 12) 陽暦では8月1日にあたる。
- 13) この名勝に指定されている風景地は、埼玉県、栃木県、福島県、宮城県、岩手県、山形県、秋田県、新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県にある合計26か所である。
- 14) 道の駅の北側に、にかほ市が総事業費は約10億7500万円で建設され、アウトドア用品大手のモンベルホールディングスが指定管理する。「モンベルにかほ店」を核とし、ビジターセンターでは観光案内、カヤックや登山用品一式、電動アシスト付き自転車「イーバイク」などの用具レンタルをおこない、クライミング体験ができる高さ約8メートルのクライミングピナクルも備えられた（秋田魁新報 2024. 6. 27）。
- 15) 新しいツーリズムの形態として、これらの事例は、エコツーリズム、グリーンツーリズム、コンテンツツーリズム、産業観光に分類される。
- 16) 着地型観光とは、観光の着地（この場合にかほ市）側が、地元ならではの体験プログラムなどを企画・運営する観光形態のことをいう。

- 17) 「鳥海山・飛島ジオパーク」は、秋田県にかほ市、由利本荘市、山形県遊佐町、酒田市にまたがる地域をエリアとしており、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会は、①ふるさとを知る、②ふるさとを共有する、③ふるさとを守る、④ふるさとの賑わいを創る、⑤ふるさとを伝える、⑥ふるさとの災害に備える、の 6 点をジオパークの役割と地域の将来像として掲げている（鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 WEB サイト）。
- 18) J. アーリーが提唱するいくつかのまなざしのうち、「ロマン主義的まなざし」は「孤独、隠遁、そしてまなざしの対象との個人的で半ば精神的関係に主眼点がある。こういうケースでは観光者は対象を、ひそかにあるいは少なくとも『大切なだれか』とだけ見たいのである。」と定義している（Urry 2011=2014: 29）。

※本稿の写真はすべて筆者が撮影した。

引用・参考文献

- 麻生磯次, 1961, 『奥の細道購読』 明治書院。
- Cohen, E, 1979, “A Phenomenology of Tourist Experiences” *Sociology*, 13. (遠藤英樹訳, 1998, 「観光経験の現象学」『研究季報』9 (1), 奈良県立商科大学.)
- 長谷川成一, 1996, 『失われた景観一名所が語る江戸時代』 吉川弘文館。
- 本荘市, 1986, 『本荘市史』 史料編 3。
- 石井智代, 2023, 「移住者としての経験を活かした移住サポートと地域おこし」 秋田経済研究所『あきた経済』(530)。
- 金森敦子, 2000, 『芭蕉はどんな旅をしたのか — 「奥の細道」の経済・関所・景観』 晶文社。
- 象潟町教育委員会編, 1973 『象潟町史』。
- 象潟町編, 2001, 『象潟町史 通史編』下。
- 象潟町編, 2002, 『象潟町史 通史編』上。
- 正岡子規, 1893, 「はてしらずの記」 正岡中三郎監修, 1979, 『子規全集 小説紀行』(13) 講談社。
- 齋藤一樹, 2023, 「『おくのほそ道』最北の地 象潟の歴史」 東北地質協会『大地』(62)。
- 佐藤勝明, 2018, 『全文を読み切る『奥の細道』の豊かな世界』 大垣市教育委員会。
- 俵万智・立松和平, 2001, 『新・おくのほそ道』 河出書房新社。
- Urry, J, & Larsen, J, 2011, “The tourist gaze 3. 0”, London: Sage Publication. (加太宏邦訳, 2014, 『観光のまなざし (増補改訂版)』 法政大学出版局.)
- 秋田県, 2022, 「男女別 15 歳以上就業者数の割合 (平成 27 年, 令和 2 年)」(2025 年 1 月 23 日取得, <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/65486>).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2012, 「平成 23 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000006658_00/h23kankotoukei.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2013, 「平成 24 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000007423_00/kankotoukei.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2014, 「平成 25 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000008682_00/kankotoukeih25.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2015, 「平成 26 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000009902_00/kankotoukeih26.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2016, 「平成 27 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000011365_00/kankotoukeih27.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2017, 「平成 28 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得, https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000027802_00/H28%E7%A7%8B%E7%94%B0%E7%9C%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88%E7%BC%880825%E4%BF%AE%E6%AD%A3%E7%BC%89.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課, 2018, 「平成 29 年秋田県観光統計」(2024 年 12 月 15 日取得,

- https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000036744_00/%E5%B9%B3%E6%88%90%E5%92%E5%99%E5%B9%B4%E7%A7%8B%E7%94%B0%E7%9C%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf).
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2019，「平成30年秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000036744_00/%E5%B9%B3%E6%88%90%E5%92%E5%99%E5%B9%B4%E7%A7%8B%E7%94%B0%E7%9C%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf））。
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2020，「令和元年（平成31年）秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000051650_00/%E4%BB%A4%E5%92%8%E5%85%83%E5%B9%B4%E5%88%E5%B9%B3%E6%88%90%E5%93%E5%91%E5%B9%B4%E5%89%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf））。
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2021，「令和2年秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000059676_00/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%B9%B4%E7%A7%8B%E7%94%B0%E7%9C%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf））。
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2022，「令和3年秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000067128_00/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%93%E5%B9%B4%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf））。
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2023，「令和4年秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，[https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000075625_00/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%B9%B4%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8\)\(R7.2.26\).pdf](https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000075625_00/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%B9%B4%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8)(R7.2.26).pdf)））。
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課，2024，「令和5年秋田県観光統計」（2024年12月15日取得，https://www.pref.akita.lg.jp/uploads/public/archive_0000083627_00/%E4%BB%A4%E5%92%8C%E5%95%E5%B9%B4%E8%A6%B3%E5%85%89%E7%B5%B1%E8%A8%88.pdf））。
- 秋田魁新報，「モンベル東北最大級店舗，道の駅象潟内に28日開店 観光情報発信も」『秋田魁新報』2024年6月27日，秋田魁新報電子版（2025年1月18日取得，<https://www.sakigake.jp/news/article.jsp?kc=20240627AK0028&pak=1&pnw=0&ptxt=%E3%81%AB%E3%81%8B%E3%81%BB%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%83%88%E3%83%89%E3%82%A2&psel=&pyl=&pm1=&pd1=&py2=&pm2=&pd2=>））。
- 文化庁，「文化遺産オンライン—象潟」WEBサイト（2025年1月18日取得，<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/215829>））。
- 河北新報，2022，「『2強』道の駅の戦略注目 山形・遊佐と秋田・にかほ 日道全線開通まであと4年」『河北新報』2022年10月10日，河北新報オンライン（2025年1月23日取得<https://kahoku.news/articles/20221009khn000019.html>））。
- 観光庁，2023，「観光立国基本計画」（2025年2月15日取得，<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/810001005.pdf>））。
- 観光庁，2024，「観光入込客統計に関する共通基準調査要領—令和5年（2023年）改定版」（2024年12月15日取得，<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001741082.pdf>））。
- 環境省，「鳥海国立公園の公園区域及び公園計画の変更案の概要」（2025年1月18日取得，<https://www.env.go.jp/press/files/jp/10170.pdf>））。
- 象潟郷土資料館，2021，「象潟九十九島展」パンフレット（A4版6ページ）。
- 象潟前川地区景観保全型ほ場整備推進委員会，2021，「象潟前川地区景観保全型ほ場整備グランドデザイン」（2025年1月23日取得，<https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/15/58684095.pdf>））。
- 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所，「日本海東北沿岸道」パンフレット（2025年1月23日取得，https://www.thr.mlit.go.jp/sakata/road/nitiendo/pdf/nichien_panf.pdf））。
- 長野県，「長野県ユニバーサルツーリズム推進事業」WEBサイト（2025年2月5日取得，<https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/universal/universal.html>））。
- 日本アドベンチャーツーリズム協議会，「アドベンチャーツーリズムとは」WEBサイト（2025年2月14日取得，<https://atjapan.org/adventure-tourism>））。
- にかほ市，2019，「にかほ市 市政要覧 にかほおーかす」（2025年1月14日取得，<https://www.city>））。

- nikaho.akita.jp/material/files/group/9/08517280.pdf).
- にかほ市, 2020a, 「にかほ市人口ビジョン令和 2 年 2 月改訂版」(2025 年 1 月 18 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/8/70104118.pdf>).
- にかほ市, 2020b, 「にかほ市景観計画」(2025 年 1 月 18 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/17/28442582.pdf>).
- にかほ市, 2021, 「にかほ市過疎地域持続的発展計画」(2025 年 1 月 18 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/8/202109.pdf>).
- にかほ市, 2022a, 「にかほ市の概要」WEB サイト(2025 年 2 月 2 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/gyosei/gyoseijoho/nikahoshinogaiyo/profile/1967.html>).
- にかほ市, 2022b, 「HAGAIGU にかほワーケーション」(2025 年 1 月 23 日取得, <https://hagaigunikahoworkcation.com/>).
- にかほ市, 2023a, 「にかほ市シティプロモーション戦略」(2025 年 1 月 18 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/8/city.pdf>).
- にかほ市, 2023b, 「新産業支援センター『しまのま』の詳細」WEB サイト(2025 年 1 月 23 日取得, <https://www.city.nikaho.akita.jp/soshiki.karasagasu/shokoseisakuka/gyomuannai/5/2/workvacation/4747.html>).
- にかほ市観光協会, 「にかほ市観光情報 秋田県にかほめぐり旅」パンフレット (A4 サイズ 4 ページ).
- にかほ市総務課, 2012, 「広報にかほ」2012. 8. 15 版.
- にかほ市総務課, 2025, 「広報にかほ」2025. 1. 15 版.
- 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会, 「鳥海山・飛島ジオパークとは」WEB サイト(2025 年 1 月 23 日取得, <https://chokaitobishima.com/about>).
- UNTourism, 2008, “*Glossary of tourism terms*” (2025 年 2 月 14 日取得, <https://www.unwto.org/glossary-tourism-terms>).